

今週（4月15日から4月19日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み最終日を経て10連休を含む新積み期入りしたものの、調達に急ぐ先は見られず、週を通して落ち着いた展開となった。日銀当座預金残高は週を通して390兆円台後半で推移した。無担保コールO/N物は、邦銀を中心に週を通して▲0.086～▲0.025%程度の出合いとなった。週初15日は積み最終日であるものの、取り調整の動きは限定的で、加重平均レートは▲0.061%となった。新積み期入りした16日以降も軟調な地合いは継続した。10連休を控えているものの、前倒しでの積極的な調達は無く、ビッドしている先に関しても調達量は限定的で、一巡後は出し残るオファーが見られた。ターム物に関しては、10連休を跨ぐ期間のもので▲0.050～▲0.030%程度の出合いが散見されていた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは19日に2W物・15,000億円がオファーされ、4,081億円（期落ち額5,131億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.130～▲0.100%程度の水準で推移した。週半ば以降は▲0.110～▲0.100%程度に落ち着いた。

SC個別銘柄では、5年134～139、10年336～354、20年164～168、30年55～62、40年6～11などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、レート水準の低下から買い手が少なくなっていることや、大型連休を控えていることなどの要因から、慎重姿勢が強まる展開となり、全般的に閑散なマーケットとなった。

16日に実施された短国買入オペは、2,500億円がオファーされた。平均落札利回較差+0.011%、按分落札利回較差+0.008%と、足元ファンディングレートの上昇や、大型連休を控えていることもあり、引け値の低い銘柄の在庫調整の売りから小甘い結果となった。

18日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.170～▲0.167%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.1691%、按分落札利回▲0.1651%と、マーケットの慎重姿勢を反映してか、前回債からレートが上昇する結果となった。結果発表後のセカンダリマーケットでは、▲0.185～▲0.176%の出合いと堅調に推移した。

19日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.175%で出合う展開となった。しかし、発行日が海外の休日にあたり買いが少ないこともあってか、結果は応札額が10兆4,369億円程度にとどまり、平均落札利回▲0.1552%、按分落札利回▲0.1358%となった。平均レートと按分レートが乖離しており、マーケットの慎重姿勢の強まりを反映したと考えられる。結果発表後のセカンダリマーケットでは、▲0.145～▲0.140%で出合った。

●CP市場

今週のCP市場は、ノンバンク1社の1,000億円程度の大型発行を筆頭に、鉄鋼や卸売、小売等の業態で大型の案件が散見され、週間償還総額3,900億円程度に対し、発行総額9,100億円程度と発行超のマーケットとなった。先週11日に18兆円台まで回復した市場発行残高は、直近18日時点で19兆988億円まで達している。ただし発行残高の伸びはその他金融が牽引するところが多い。先週末比では一般事業法人の発行残高が2,500億円増えているのに対し、その他金融は7,100億円拡大して発行残高が9兆円台後半に達しており、過去最高となった1月の水準に近づいている。また、その中でも前述のノンバンク1社で2,600億円程度発行残高を積み上げるなど、発行残高の拡大には偏りが見られ、銘柄が広がっているとは言いがたい状況にある。その為、発行残高が回復する中でも、発行頻度の低い物、発行残高の少ない物ではマイナスを深掘りする動きが見られた。また、発行残高が積みあがっている銘柄に関しても、優良銘柄では投資家や業者の買い余力はまだ十分にあるとみられ、引続き浅いマイナスから0%近辺の狭いレンジで決着している。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
4/15（月）	22,169.11	△ 0.035	111.99	△ 0.061	△ 0.142	3,969,600
4/16（火）	22,221.66	△ 0.025	111.97	△ 0.065	△ 0.121	3,969,800
4/17（水）	22,277.97	△ 0.013	112.00	△ 0.065	△ 0.104	3,963,700
4/18（木）	22,090.12	△ 0.030	111.98	△ 0.069	△ 0.105	3,974,100
4/19（金）	22,200.56	△ 0.030	111.93	△ 0.072	△ 0.106	3,976,100

来週（4月22日から4月26日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/22 (月)					3月の米中古住宅販売 EURO、London祝日(Easter Monday)
4/23 (火)	3月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	2Y 20,000億円 5/7発行			3月の米新築一戸建て販売件数
4/24 (水)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00～)	交付税借入 10,500億円 5/10借入			
4/25 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望				3月の米耐久財新規受注
4/26 (金)	3月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 4月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 3月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 3月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 3月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50)				1-3月期の米GDP速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/22 (月)	▲ 3,800	4,700	900	国債買入 全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入	▲ 5,100 ▲ 300	9,800 4,100 800 700	10,000	10,900	TB3M発行▲43000償還41100 TB1Y発行▲19000償還12600 エネルギー対策借入▲8500期日8500
4/23 (火)	▲ 3,000	5,000	2,000				0	2,000	
4/24 (水)	▲ 3,000	▲ 11,000	▲ 14,000				0	▲ 14,000	申告所得税揚げ
4/25 (木)	▲ 4,000	9,000	5,000				0	5,000	
4/26 (金)	▲ 3,900	6,500	2,600	CP買入		1,500	1,500	4,100	交付税借入▲10500期日10500
週 間 合 計	▲ 17,700	14,200	▲ 3,500	—	▲ 5,400	16,900	11,500	8,000	

4/22は日銀予想、4/23以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、今週と同様に低調な地合いが予想される。特に連休前26日のO/Nは月末要因から調達を控える先が増えることで、一層のレート低下が見込まれる。レボ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは横ばい圏で推移すると見られる。短国市場は、入札の実施予定がない。10連休を控えて、レート水準などの市場動向が注目される。CP市場は、23日にCP等買入オペが1,500億円で実施予定となっている。足元の品不足感とオペへの期待感の薄さから、前回9日のオペの応札額は「量的・質的金融緩和」開始以降最小となる2,760億円となった。その時から発行残高が1兆円強拡大しているものの、0%での保有ニーズは根強く、プラス水準で売り急ぐ展開も考えづらい。引き続き、按分レートは浅いマイナス圏で決着することが予想される。また発行残高に関しては大型発行を目前に控えた月末週となり、活況なマーケットとなることが期待される。

主要なイベントとしては、国内では24～25日の日銀金融政策決定会合、海外では26日に1～3月期の米GDP速報値が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入